



ご挨拶

風薫る五月。初夏の日差しが眩しく、野山は新緑の季節になり生命の輝きに満ちています。しかし、人間社会は新型コロナウイルスの影響が相変わらず暗い影を落としています。今月になってようやく感染者も減少して、緊急事態も解除になりました。でも、油断はできません。コロナは消えたわけじゃなく、私たちの身近に潜んでいて、復活の機会を狙っています。感染予防の配慮を怠ってはいけませんが、少しでも以前の日常が戻ってくるのは嬉しい事です。

【声よし、姿よし！初夏の野鳥特集】

今月も、新型コロナウイルスの影響で公民館事業は開催できませんでしたが、季節は初夏になり、久斗山には多くの夏鳥が繁殖に南の国から渡ってきています。5月10日から16日は『愛鳥週間』(囲み枠の中参照)だったこともあり、今回は、今の時期に山の中などで、木の梢にとまっている美しい姿が見れたり、囀る声が聞こえる野鳥をご紹介します。なお、野鳥の写真の主なもの、「豊岡市立コウノトリ文化館」の高橋信館長よりご提供いただきました。いずれも但馬内で撮影したものです。この場をお借りして感謝を申し上げます。

・アカショウビン

早朝や天気の良い日に、裏山などから「キョロロ〜」という鳴声が聞こえます。その姿を見れることは稀ですが、朱色をしたとても美しい鳥です。川にいるカワセミの仲間、長くちばしが特徴的です。冬場は南の暖かい国にいて、夏に日本の森で子育てをします。

・キビタキ

雄は頭から背にかけて黒く、眉と喉から胸元が黄色、翼に白斑があります。ブナ林などで、とても透き通った声で「ピッコロ、チュチュリ…」と鳴きます。姿も鳴声も美しい鳥です。

・オオルリ

前のキビタキと共に雌は目立たない地味ですが、こちら雄は、頭から背、尾っぽにかけて瑠璃色しており、腹部の白が際立つ美しい鳥です。ブナ林や深森の中のちょっと目立つ枝先などで「ピリーリ、ピリーリ、ジュジュ…」と囀ります。

・ミソサザイ

春先から渓谷に行くと、谷に響き渡る声で「チリリ…」と囀っています。谷の水音にも負けない鳴声ですが、その姿はとても小さく、地味な茶褐色です。滝の裏や崖地に苔などを使って巣を作ります。

・サンコウチョウ

「ツキヒーホシ(月日星)、ホイホイホイ」と鳴くので、その名前(三光鳥)がつけられいますが、久斗山では「きゅーべー(九兵衛爺)鳥」と呼ばれてます。杉林のような少し暗い林の中で、苔やクモの糸を使って巣を作ります。繁殖期の雄は長い尾を持ちます。

・ノゴマ

13日の朝、畑に行く途中の道路に死んでいました。喉が赤い、ノゴマの雄でした。東南アジアなどの暖かい場所で越冬し、夏に北海道やロシアで繁殖します。その移動の途中で、久斗山を通過する時に車にでも激突したのでしょう。死体は手厚く埋葬しました。



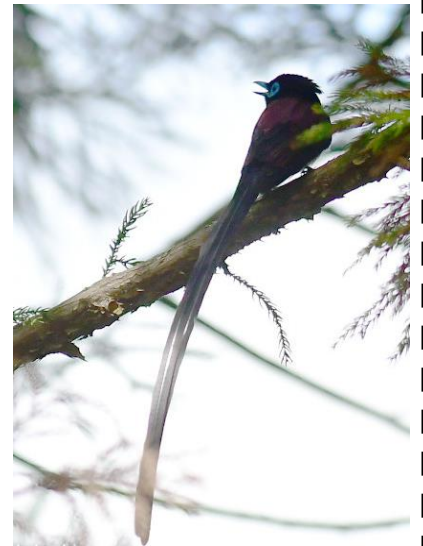
愛鳥週間(バードウィーク)とは? 愛鳥週間は、1894年(明治27年)アメリカ合衆国ペンシルバニア州オイルシティ市の教育長バブコック氏が、森林の保護者である小鳥を守るうと、「バードデー」を考えたのが始まりです。その後、アメリカ全土に拡大し、毎年4月10日が「バードデー」となりました。日本では1947年(昭和22年)に鳥類保護の推進母体として日本鳥類保護連盟が結成された際に、国民の愛鳥保護思想を高めるため、毎年4月10日が「バードデー」と定められました。その後、この時期の北国では、まだ積雪が残ることから、1950年(昭和25年)に、5月10日から16日までの1週間を「愛鳥週間」と決めました。期間中、全国で野鳥保護にちなんだ行事が行われます((公財)日本鳥類保護連盟より)



アカショウビン



キビタキ



Kahashi
サンコウチョウ



オオルリ



ミソサザイ



久斗山の村内の道路に死んでいたノゴマ
(2020,05,13. 撮影:山本)

【今年も田植え、終わりました】



今月は田植えのシーズンです。JA浜坂でコシヒカリの苗が6日から提供されることから、それまでにほとんどの田んぼに水が張られ、代かきが行われました。久斗山で稲作を行う農家は、高齢化などの理由で、今では20戸に満たない状態まで減っています。でも、中山間組合の援助もあり、今年はこれまで休耕だった田んぼに稲が植えられました。代均しされ、青空や緑の野山が水面に映る田んぼを田植え機が走り、苗が植えられる様は見ていると心が和みます。秋は豊作を期待したい！

【青空に威勢よく泳ぐ、鯉のぼり！】

5月5日は子どもの日で端午の節句でした。3月3日の雛祭りが女の節句に対し、男の節句の風潮が強く、鎧や甲の飾りとともに、威勢のよい鯉のぼりを立てます。近年は少子化で見かけなくなりましたが、今年も境の田中さんのお宅では、青空に元気よく泳ぐ鯉のぼりが見られました。



【幸運の四葉のクローバー、しろつめくさ】

空き地で子ども達の声がします。何してるのか見に行くと、シロツメクサの花で冠を作ったり、四葉のクローバーを探していました。コロナの影響で学校も2ヶ月以上休校が続いています。たまには野外で息抜きも必要です。幸運の四葉を三つも見つけました。きっと良いことがある！！



○令和2年 6月の行事

- 6日(土) 霧ヶ滝トレッキング(9:00~15:00) 上山高原エコミュージアム
- 14日(日) 明治の水路と高丸の滝散策(9:00~15:00) 上山高原エコミュージアム
- 20日(土) 自然教室「ホタルとカエルの夜間観察会」(18:00~21:00)久斗山地区公民館



NPO法人上山高原エコミュージアム

「扇ノ山新緑登山(平日版)」

○とき: 令和2年6月18日(木)9:00~15:00
 ○集合場所: 上山高原ふるさと館
 ※午前9時までに集合
【持物】ザック、昼食、飲物、雨具、着換え等
【服装】帽子、長袖シャツ・長ズボン、登山靴
 ※登山の装備で
【行程】上山高原小ツツ登山口までバス移動
 徒歩で山頂まで約2時間
 山頂で昼食後に下山、畑ヶ平高原へ
 畑ヶ平高原よりバス、帰路へ
【その他】雨天中止
【申し込み・問い合わせ先】
「上山高原ふるさと館」
 新温泉町石橋757-1
 TEL: 0796-99-4600 FAX: 0796-99-4601



カラスビシヤクの花

今月の野草

カラスビシヤク

畑のすみみに、いつの間にかにゅっと伸びてきた変な草。先端の包みの先から更に黒っぽい細長いひも状のものが伸びています。これはカラスビシヤクの花です。サトイモと同じ仲間、この仲間にはマムシグサとか変な花を咲かせます。名前の由来は、鴉が使う柄杓で役に立ちそうもないから・・・でも、漢方薬の半夏(はんげ)として、吐き気止めの薬になります。

かかって昔話 熊に育てられた娘 (第二話)

若嫁は、さつきまですやすやと眠っていた娘のはなが消えて、慌てて周辺を探し廻りました。でもどこにも見つかりません。さんざん探し回った若嫁は半狂乱になつて村に帰ると、村人にはな消えた経緯を話、その日は村人総出で夜通しはなを探しました。それから三日三晩、はなの搜索はつづけられましたが、包んでいた綿入れの布切れ一辺さえ見つけることはできませんでした。「大鷲が巣に持ち帰って雛の餌にしたのでは・・・」と、狐など山の動物が食べたんだ「心無い人の口からは、いつしかそんな言葉がのぼるようになりました。神隠しや天狗がさらったというような事さえ、この時代では稀に起こる事象として受け入れられていたのです。では、はなは本当にどこに行つたのでしょうか? この日、子を失った牝熊は、畑のそばに置かれた綿入れから漂う乳臭い匂いに引かれて、そつと近づきました。そして、すやすやと眠る人間の赤ん坊を目にしたとき、思わず我が子への切なさ湧き上がり、そのまま綿入れごと赤ん坊を咥えると、その場から持ち去ったのです。冬眠していた巣穴に帰った雌熊は、最初は戸惑いました。綿入れの中の赤子は自分の子とは似ても似つかないものでした。そうして泣き出しました。赤ん坊の泣き声は親の心に響くものです。泣き声は親の心はななの前に身を横たえ、乳首をはなの口にふくませたのです。(つづく)